メカトロニクス技術高度化「教育助成」A応募要領（2025年度事業分）

公益財団法人NSKメカトロニクス技術高度化財団

〒141-0032東京都品川区大崎1-6-3(日精ビル)

**PHONE:**03(5496)5746　**FAX:**03(5496)5748

E-mail:nsk-fam@nsk.com

本財団は日本精工株式会社（NSK）とそのグループ会社の後援で運営されています。日本精工グループは、Motion & Control をモットーと定め、転がり軸受等の機械要素製品、ボールねじ等の精密機械製品および自動車用電動ブレーキ用等の機械システム製品など、メカトロニクス技術を支える機械製品の製造販売を行っています。

本財団の教育助成事業の対象は、以下の２種類です。

A助成：高等専門学校の学生にメカトロニクス技術においてこれらの機械製品が果たす役割を理解させ、また質量ある対象を支え、駆動し、制御するというメカトロニクス技術（Motion & Control）の本質を経験させることのできる、座学と実験・実習が連携、融合した教育を対象とします。この助成では、1,2年次の導入教育、3,4,5年次の基礎教育、専攻科における発展教育など、学年進行に応じた教育内容の改革、創意工夫、**基礎的知識や技術的能力の育成を目的とした応募**を歓迎します。またメカトロニクス技術が機械系および電気・情報系技術の融合分野にあることから、これらを専門とする複数の教員や学科・専攻のチームによる教育が必須であると考え、そのような提案を優先します。

B助成：基礎的なメカトロニクス関連教育科目（座学）とその科目に関連する実験・実習テーマを担当する教員個人を支援対象とします。

以上、本A助成の趣旨を十分ご理解のうえ、申請していただければ幸いです。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1 | 教育助成の対象と助成の種類 | 高等専門学校のメカトロニクス技術教育を助成いたします。このメカトロニクス技術教育とは質量のある物体を駆動し制御する技術およびそれに関連する機械要素技術の教育であり、座学と実験、実習を連携、融合させた教育の改革、高度化に必要な費用を対象といたします。　　A助成：複数の教員がグループで、複数の学年、学科にまたがる教育プログラムを担当し、座学と実験実習を融合させながらメカトロニクス技術教育の改革と高度化、**基礎的知識や技術的能力の育成**の経費を助成する。　 |
| 2 | 申請者承認者 | 申請者：A助成は担当代表教員申請の承認者：高等専門学校の校長  |
| 3 | 応募件数と調整 | 応募は各年度A助成及びB助成とも1校それぞれ各1件を限度とします。各高専にてそれぞれに複数の応募希望がある場合は、申請者の承認者である校長の裁量にてそれぞれ１件に調整してください。 |
| 4 | 助成金額 | A助成：１件あたり250万円を限度とします。 |
| 5 | 助成対象の期間 | 2年間とし助成2年後に報告書を提出していただきます。 |
| 6 | 助成後の対応 | A助成の場合、この教育を恒常的なカリキュラムに組み込み、継続して実施することを目指してください。 |
| 7 | 申請書の作成 | 「教育A助成」は申請書（2025年度事業分・・C-3ページからC-7ページ）に必要事項を記入して、**申請書C-3ページ（捺印必要）のみPDFを**、さらに申請書全頁をPDF（捺印不要、コピーペースト可能な設定）によりE－Mail**（****nsk-fam@nsk.com****）にて**送付してください。文章はフォント明朝10.5ptを用いてください。 |
| ８ | 応募締切期日 | 2025年11月21日（金）E－Mail分必着（本メカトロニクス技術教育科目のシラバスと実施学科の全学年のカリキュラムは各校の書式を含む） |
| ９ | 選考 | 1. 当財団で審査・選考し、2026年1月末日までに採否を申請者に通知します。
2. 採択数はA助成3件前後を予定しています。
 |
| 10 | 教育助成金の贈呈 | 1. 採択された申請に対する助成金は所属機関への寄附金として取り扱います。
2. 助成金交付証の贈呈は2026年3月を予定しています。
3. この助成金は受領後その使途を変更する場合にはあらかじめ当財団の承認を得てください。
4. 助成金の振込みは振込先を連絡いただき次第行います。
 |
| 11 | 報告と情報公開 | 1. 2028年4月末までに教育助成報告書（2025年度16期助成事業）を提出してください。
2. 授業に関連した資料があれば提出願います。

(3) A助成については、本メカトロニクス技術教育科目のシラバスと実施学科の全学年のカリキュラムは各校の書式によりE－Mailで提出願います。(4) (1)、(2)、(3)の資料に対しては著作権等を配慮した上で公開をお願いすることもあります。 |
| 12 | 担当代表教員の交代、転出 | (1) A助成担当代表教員が転出、移動等で交代する場合、速やかに事務局まで　　ご連絡ください。新たに担当代表教員を選任し、教育を継続してください。(2) 助成金の残余は、事務局に返納していただくか、交付先高専のメカトロニク　　ス教育のため、校長または学科長の裁量にてご使用ください。 |
| 13 | 応募の制限 | (1) A助成を受けた高専からの再度の応募は、報告書を提出した翌年度から受付可能となります。その際には、前の助成の成果と新しい応募の関連について明確に記述していただくか、**「同一申請者」や「同一科目」，「同一の取り組み」等の記述をお願いします**。ただし新規の応募が優先されます。(2) 同一の教員が、同時にA助成とB助成の申請者または担当者になることは　　できません。 |
| 14 | その他 | 助成を受けた科目講義資料には、当財団助成金の交付を受けた旨を記載下さい。 |

公益財団法人NSKメカトロニクス技術高度化財団

財団記入整理Ｎｏ．

理事長　　内　山　俊　弘　殿

　　　　年　　月　　日

高等専門学校のメカトロニクス技術高度化のための「教育A助成」申請書（2025年度事業分）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 申請者・担当代表教員 | ふりがな |  | 印 | E-mail |  |
| 氏　名 |  | 役職・専門分野 |  |
| 所属機関、学科 | 　　　　　　　　　　　高等専門学校　　　　　　　　　　　　　学科 |
| ホームページURL |  |
| 同上所在地 | 〒 | 電話番号 |  |
| 携帯番号 |  |
| 担当分担教員 | 氏名 | 役職 | 学科・専門分野 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
| この申請書は　　　　　　　　　　高等専門学校として承認いたします。助成を受けた場合はこの教育の授業を恒常的カリキュラムに組み込むことを目指します。　　　　　　　高等専門学校　　　　校長印　　　　　　　　　校長　　 |
| 科目名 |  |
| 1. 申請の概要（2.3.4.を簡潔にまとめ、フォント明朝10.5ptで記入してください） |

記入にあたっての注意事項

1. 申請者・助成対象者が**申請書C-3ページ（押印、校長印要）のみPDFと、申請書全頁をPDF（押印不要、コピーペースト可能な設定）**E-Mailにて両方を送付し申請してください。

E-Mailアドレス：nsk-fam@nsk.com

2. ホームページを開設されている申請者の高等専門学校のホームページURL欄にご記入願います。

3. 担当分担教員が4名以上の場合は申請書末のC-７ページに追記願います。

4. 科目名は助成金により教材を導入するメカトロニクス技術教育科目名を全て記入してください。

5. 該当学科の本メカトロニクス技術教育科目を含む全学年のカリキュラムは各校の書式で提出願います。新規の科目の場合は既存のものに下線し追記又は修正願います（手書きでも可）。

6. 本メカトロニクス技術教育科目のシラバスは各校の書式により提出願います。既存のものを変更する

場合は、その部分を下線し追記又は修正願います（手書きでも可）。

7. 6，7項もE-Mailにて送付願います。

|  |
| --- |
| 2. 今回申請のメカトロニクス技術教育の目的(狙い)と到達目標（フォント明朝10.5pt） |

|  |
| --- |
| 3. 科目の内容（授業内容、方法、使用する教材および連携する他教科など）（フォント明朝10.5pt） |

|  |
| --- |
| 4. 申請科目の対象クラス（混合or単独学科、必修or選択かなど）、人数、総授業時間と教職員の体制（フォント明朝10.5pt） |

本件の「教育助成」の応募において最初に情報源として知った番号を記入下さい

|  |  |
| --- | --- |
| 1. 学校長・学内・所内案内、② 当財団HP、③ 知人紹介、

④ インターネット⑤ ポスター、⑥ 日本精工からの働きかけ、⑦ 他助成財団HP、⑧ その他 |  |
| 5. 助成申請額と使途 （必要に応じ用紙を追加してください）教育費用全体予定額(a) 　　　　　　　 千円　助成希望金額(b)　　　　　　　 千円

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 費　目 | 内　容 | 教育費の使用計 | 左記のうち助成を希望する金額 |
| 備品費 |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| 消耗品費 |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| その他 |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| 合　計 |  | (a) | (b) |

購入品は具体的な個々の品名を記入する（“一式”などのように一括りにしない）。 |

担当分担教員追加分

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 担当分担教員 | 氏名 | 役職 | 学科・専門分野 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |